



発熱が永く続いているのですが、 どういう病原体によるものでしょうか?

第14回

小さいお子さんはよく熱を出しますね。同時に鼻水とか咳とかもあって、病院に受診すると、「風邪ですね」といわれることも多いと思いますが、以前にお話しした様に、かぜ症候群とは、急性のウイルスによる上気道感染症で、基本的には自然治癒するものを言います。かぜ症状を起こすウイルスは数百種類以上あり、通常はそのウイルスを特定できませんので、基本的に症状にて診断されるわけです。そういうことから、本来は異なる疾患であるものの、診察時に、その初期症状が「かぜ」症状であるものも含まれることになり、その後に本来の症状がでてくると、別の疾患であったことが判明することもあります。

最初は風邪だと思っていたのに、なかなか熱が下がらない、最初は割と元気だったのに、だんだん元気が無くなってきて、食欲も減少してきた。咳とか鼻水はあまり気にならないが、熱だけ続く。あるいは発疹がでてきた……。こういうことはたまにあります。受診すると、必要に応じて、アデノウイルスとかヒトメタニューモウイルスなんかの迅速診断キットで検査が行われることもあります。いずれも陰性で、「なんらかのウイルス感染症ですね」と言われることもあると思います。ウイルス感染症であれば抗菌剤は効果はありませんので、治すためには基本的には自分の体力でウイルスを排除する以外に方法はありません。水分とか食事が取れなくなってきたので、入院してもらって輸液をしたら、徐々によくなって熱も下がって、元気になるました。よかったですねということもありますが、結局原因はなんだったのかはわかりません。まあ、結果的に治っているんだから気にしなくても良いし、そもそもウイルス感染症であれば治療方針は同じなので、原因を追及する必要は無いということにもなります。でも、少し気になりますよね。最初か

らなんの感染症なのかわかっていれば、そんなに心配せずに済んだかも知れませんが。

人間に感染症を引き起こす病原体は全部で1,415 species(種)あるとされ、そのうちの15%がウイルスで38%が細菌とされています。大して多くないと思われるかも知れませんが、それぞれの種には数百以上の血清型のウイルスが入っていますので、実際にはほぼ無数と言っていいくらいに多くのウイルスがいます。

現状では実際の治療には影響しないかも知れませんが、患者さんひとりひとりの病気の原因を突き止めていくことによって、どのようなウイルスが多いのか、あるウイルス感染の場合にはどのような経過をたどるのかなどがわかると、今後の治療や予防対策に貢献できると思われます。そこで、臨床研究部では、原因が不明の感染症の患者さんについて、多種類のウイルスの遺伝子を同時に検査する方法で(multiplex real-time PCRと言います)、感染ウイルスを検索しています。もちろんたくさん検査すれば費用もかさみますので、現在は頻度の高い24種類(HRVs、HRV-B、RSV-A、RSV-B、HPIV-1、HPIV-2、HPIV-3、HPIV-4、AdV-B、AdV-C、AdV-D、AdV-E、HBoV、HMPV、Inf-A、Inf-B、Inf-C、HCoV-OC43、HCoV-229E、HCoV-NL63、EV、HCoV-HKU1、HPeV、SAFV)を検査していますが、必要に応じて他の病原体も検討していきます。もちろん、原因が不明のすべての患者さんに検査を行っているわけではありませんが、非常に重要な結果をもたらすこともありますので、今後も少しずつ広げていきたいと思っています。



(臨床研究部長 谷口 清州)

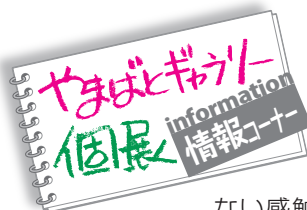
5病棟の生活のひとコマ 47

5月の誕生会は、「亀山ロマンチカ」の皆さんに大道芸を披露していただきました。患者さんは、舞台をじっと笑顔で見たり、声をあげて見たりして、とても興味津々の様子でした。6月



の誕生会は、5病棟に入院している患者さんの家族の方に太鼓を披露していただく予定です。今からとても楽しみです!

(児童指導員 白松 美優)



今月のやまばとギャラリーは、丸めたり、ちぎったりしたお花紙を画用紙に貼りつけて制作した「あじさい」を展示します。患者さんは、慣れ

ない感触に嫌がる様子を見せながらも、頑張って取り組んでいました。どれもとても素敵なあじさいです。

色とりどりのあじさいに心を癒されに来てみてはいかがでしょうか?



(児童指導員 白松 美優)